

地方都市視察報告書

福祉健康委員会

1 実施日

平成29年10月26日（木）

2 視察地 福岡県北九州市

【市の概要】

(1)面積 489.60km²

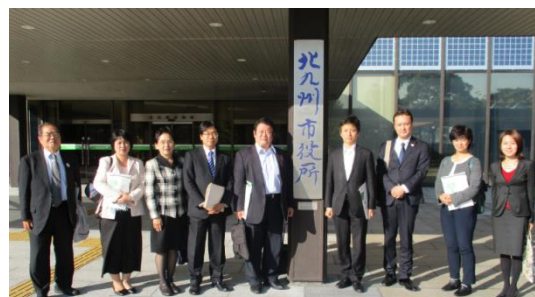
(2)人口・世帯数（平成29年3月31日現在）

人口 961,335人

世帯数 475,782世帯

(3) 北九州市は、1963（昭和38）年、北九州工業地帯の門司市、小倉市、戸畑市、八幡市、若松市の5市が合併して誕生し、首都圏、中京圏、近畿圏、県庁所在地以外で初の政令指定都市となった。戦後は鉄鋼・金属など重工業を中心に発展し、日本の高度経済成長の原動力となった。人口規模は九州で福岡市に次ぎ2位で、グローバル創業・雇用創出特区として国家戦略特区に指定されている。

新宿との関わりの深い作家、林芙美子は一説では北九州の門司に生まれたとされ、幼少期を過ごしている。門司の北九州市立文学館には林芙美子記念室があり、施設内には新宿区の林芙美子記念館にある書斎とそこから見える庭が再現され、新宿歴史博物館をはじめ、新宿とも現在も深い交流が続いている。



3 視察項目・内容

(1) 介護ロボットの導入について

4 視察参加者

【委員】

豊島 あつし委員長 吉住はるお副委員長 三沢 ひで子委員

三雲 崇 正委員 渡辺 清 人委員 鈴木 ひろみ委員

近藤 なつ子委員 赤羽 つや子委員 田中 のりひで委員

【随行】

議会事務局次長 下 杉 正 樹

議事係 佐 藤 公 彦

5 視察結果・所感

「介護現場の負担を軽減し、人材の不足を解消するためには如何にすべきか」本視察の最も重要な点はここにあると思った。

結論から申し上げれば、介護ロボットなどのハード面においては、まだまだ課題が多くあり、その効果は発揮しきれていない印象を受けたが、導入にあたっての業務分析は非常に効果があったのではないかと考える。これまで「勘と経験と度胸」で行われてきた介護業務を行動観察によって分析し、合理的に見直すプロセスは「介護の科学化」と銘打つだけあり、職員の負担軽減と人材不足の解消に向け、新たな視点を得ることが出来た。

介護ロボットを導入し、モデル実施している介護施設の若手職員たちが「カッコいい」という印象を受け、自身の仕事への満足度に寄与している点は示唆深かった。

6 主な質疑項目

- (1) 直接介護と間接介護の活用について
- (2) 本事業に携わった産官学関係者の期待度と介護ロボットの導入効果について
- (3) I Tと関連した活用と費用対効果について
- (4) 介護ロボット導入における費用面等の課題について